

Mi-com

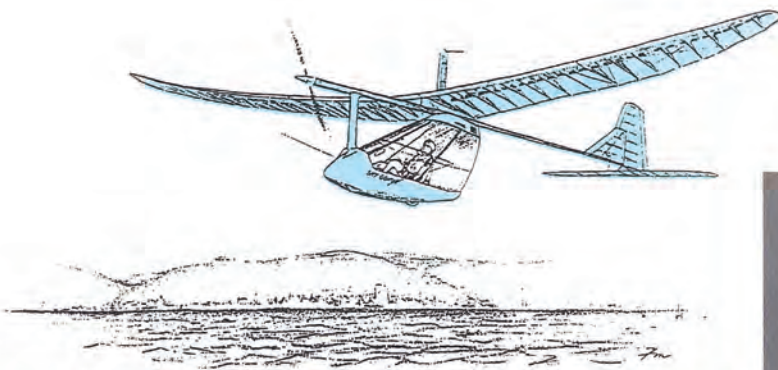
武蔵工業大学後援会誌

No. 8

1993-7



約500名の参加で行われた、体育祭伝統の名物マラソン。



武蔵工業大学後援会
会長
金原 淑郎

『ロマンを求めて』

武蔵工業大学後援会の平成5年度評議員会が5月29日に開催され、全議案が承認されましたことにより新年度の活動がスタートしました。本年度も会員及び関係者の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、評議員会後にキャンパスで、人力飛行機の組み立て検討をしているところに出合いました。これは鳥のように空を飛びたいという人間の夢を追う武蔵工業大学航空研究部の皆様が、本年夏に開催される「鳥人間コンテスト」を目指して各種データを採取していたもので、部員の皆様が真剣に作業する姿を見て同好の士として大変親近感を覚えました。昨年の大会の機体と比較して非常に大きな進歩をしており、この機体ならかなりの好成績が得られるものと確信いたしました。

大学に入って学問に励むのは当然のことです。しかし、それ以外にロマンを求めて同好の士が集まり大きな目標に向かって力を合わせ、汗を流し、物事の奥深さを知ることは人生にとって重要な経験であると思います。

航空研究部員の皆様は、本年夏の「鳥人間コンテスト」での優勝を目指して武蔵工大の英知を結集して下さい。しかし、目標は優勝だけではなくありません。人力飛行機の記録は表に示す通りで、如何に奥が深いかが分かります。目標は高く掲げて挑戦して下さい。それができるのは若い皆様方の特権なのです。

後援会はロマンを求めて同好の士が集まって活動する会が一つでも多くなり、物事の奥深さを経験する人が一人でも増えることを念願致しております。

●世界と日本の人力飛行機の記録

国名	機 体 名	飛行距離	場 所	達 成 日
米国	ブライアン・アレン・アルバトロス	35.82km	ドーバー海峡横断：フォークストン→グリネ岬	1979.6.12
米国	M.I.T. ダイタロス	115.50km	地中海：クレタ島→サントリニ島	1988.4.23
日本	ヤマハ極楽トンボ	4.43km	静岡県福田町→磐田市	1992.5.22

●昨年度の鳥人間コンテスト(日本テレビ)の優勝記録

チーム→ヤマハ極楽トンボ 飛行距離→2,019m 場所→彦根市琵琶湖 達成日→1992.8.1

『MIT(MUSASHI IN. TECH.)の全員が全ての分野で上表のMIT(MASS. IN. TECH.)の記録で示したような高い目標に向かって精進を!!』

平成5年度 評議員会が開催される

武蔵工業大学後援会の平成5年度評議員会が平成5年5月29日(土)午後2時45分から大学の3号館312教室において役員、評議員67名(委任出席17名)の出席のもとに開催されました。

評議員会は金原淑郎会長の開会の挨拶で始まり、役員および今年度新しく評議員に就任された方々が紹介された後、議事に入った。議事は事務局から第1号議案から各議案ごとに提案説明があり、その後、この説明にもとづいて審議され採決の結果、次の議案が原案の通り可決、承認されました。



▲あいさつする古浜学長



▲活発な意見の交換が行われた審議風景



▲大学との懇親会

武蔵工業大学後援会 平成5年度 評議員会

平成5年5月29日(土)

武蔵工業大学 312教室

1. 開会の辞 ——金原会長——
2. 報告事項
平成5年度後援会入会者数および会員数について
3. 議 事
第1号議案 平成4年度 事業報告について
第2号議案 平成4年度 決算報告について
第3号議案 平成5年度 事業計画案について
第4号議案 平成5年度 予算案について
第5号議案 平成5年度 役員候補者について
4. そ の 他
会務の処理に関する事項
5. 閉会の辞 ——宮崎副会長——

平成4年度 事業報告

(1) 事業

1. 正課外教育援助

- 「課外活動に対する補助制度」による援助は、59団体となった。

主な援助対象

- (1)学生団体連合会へ課外活動援助金として1,100万円を援助。
- (2)体育祭、水泳大会、Mi-Techテニストーナメント、MIT祭、ESSディベート大会等の学生行事に対して援助。
- (3)ラグビー部の全国地区対抗戦の出場に対して援助。
- (4)学生団体連合会リーダーズ研修会（12月および2月）へ援助。
- (5)学内ボランティア活動のクリーン・キャンパス運動に対して援助。
- 大学と学生団体の共催行事のスプリングフェスティバル'92の講演会への援助。
- 第1回ニューイベント・アイデア・コンテストへの援助。(優秀賞2件、アイデア賞2件、敢闘賞11件)
- 学生団体、グループによる、鳥人間コンテスト(航空研究部)、ソーラーカーレース(材料力学研)、およびエコノパワー自動車競技大会等の学外競技大会参加に対し援助。
- 学生部の委員による学生団体の合宿激励と、各団体への合宿援助金の支給。(18団体)
- 留学生の合宿研修会等各種の行事へ援助。
- 大学の課外活動賞(学長賞、学生部長賞、課外活動奨励賞)のうち課外活動奨励賞の副賞(盾)に本会の名を刻して贈呈。
- 在学中、課外活動に貢献した学生を選考し、「後援会長賞」を授与し、表彰する。

2. 「大学と父母との連絡会」への援助と協力

- 全国25会場で開催された「大学と父母との連絡会」の費用の一部(286万円)を負担。
- 東京会場においては宮崎副会長が後援会を代表して挨拶(平成4年9月)、地方においては評議員の方々に協力をいただいた。

3. 大学行事への協力

- 平成4年度入学式に金原会長が来賓として出席し祝辞。(平成4年4月)

- 学校法人五島育英会傘下の後援会合同懇親会に金原会長、宮崎・井出副会長、外山・大喜多監査が出席。(平成4年6月)
- 第9回海外研修セミナー(ヨーロッパ研修旅行)に対する援助。(平成4年8月)
- F-3000レース(本学卒業生中谷明彦氏参戦)の応援ツアーに対する援助。(平成4年10月)
- 平成4年度学位授与式に金原会長が来賓として出席し、「後援会長賞」の授与および祝辞。(平成5年3月)

4. 学生厚生援助

- 体育会の本部に所属団体の共用機器として放映・集録機器を購入援助。
- クラブハウス(18号館)に学生団体の伝言板の設置。
- 学生団体連合会の広報機関である新聞会の活動のため什器、機器を購入援助。

5. 会誌の発行

- 後援会の会誌「Mi-Com」6号(平成4年7月)、7号(平成4年12月)を刊行し、会員へ送付。また、校歌のCDを制作し会誌とともに会員へ送付。

6. 後援会長賞の新設と授与(4頁・10頁参照)

7. 入会案内等の発送

- 平成4年度入学者の内未入会の父母宛に再度入会案内を送付。(平成4年7月)
- 平成5年度入学予定者(推薦および自己推薦)の父母宛に入会案内。(平成5年2月)
- 平成5年度入学予定者(A方式、付属、B方式)の父母宛に入会案内。(平成5年3月)

8. その他

- 校歌のCDを配布
大学の歴史(英文)と校歌を覚えてもらうため学生団体(放送会、吹奏楽団、マンドリンクラブ、グリークラブ)と教職員の協力を得て作成した校歌のコンパクトディスク(CD)を新入生および在学生の会員へ配布する。(平成4年4月、7月)
- カラオケ装置一式を大学へ寄付。(7月)
- 後援会の事務担当者(アルバイト)の採用。(7月～9月)
- 大学へ今年度から制定した「後援会長賞」の候補者の推薦依頼。

(2) 運 営

1. 理事会

平成4年5月16日(土)

- 平成4年度評議員会提出案件の審議。

平成4年11月14日(土)

- 平成4年度の(1)事業経過、(2)入会者数、(3)「大学と父母との連絡会」の結果に関する審議。
- 平成5年度の主要会議日程、役員候補者選考、入会案内書送付等に関する審議。

なお、当日は理事会終了後、顧問の古浜庄一学長のほか大学関係者との懇親会が行われた。

2. 評議員会

平成4年5月30日(土)

- 平成3年度の事業報告、決算報告および、平成4年度の事業計画案、予算案の審議。
- 平成4年度の役員選出、委嘱について。

なお、当日は評議員会に先立って学内の見学会を行い、評議員会終了後、大学の教職員との懇親会を開催した。

3. 後援会の事務担当者(アルバイト)の採用

後援会の事務担当者として職員(アルバイト)を採用。(平成4年7月～9月)

4. 会計監査

平成5年4月24日(土)

- 外山、大喜多両会計監査により平成4年度の会計監査を実施。

平成5年度 後援会会員数

■工学部

平成5年6月1日現在

学科 学年	機械	電気 電子	電子 通信	建築	土木	経営	合計
1年生	256 ^(名)	170 ^(名)	139 ^(名)	122 ^(名)	111 ^(名)	141 ^(名)	939 ^(名)
2年生	227	170	127	108	107	140	879
3年生	228	160	147	110	104	142	891
4年生	301	161	84	131	117	184	978
合 計	1,012	661	497	471	439	607	3,687

■大学院

専攻 課程	機械	生産 機械	電気	建築	土木	経営	原子力	合計
修士 (1,2年)	46	37	79	42	28	17	7	256
博士 (3,4,5年)								

「後援会長賞」に22名が表彰される

●受賞者一覧

平成4年度の学位授与式において、後援会に新しく制定された「後援会長賞」の授与が行われ工学部卒業の21名(うち女子2名)と大学院修士1名の計22名が表彰されました。これは後援会の主事業である課外活動の奨励により学内の活性化を計るため、在学中特に課外活動に貢献のあった学生を表彰するものです。

今年是最初の授賞であり大学から候補者として推薦された32名の中から後援会、大学関係者による選考委員会において22名が選ばれて、3月19日の学位授与式において金原会長から代表者に表彰状および副賞が手渡されました。

氏 名	出身高校	所属クラブ	進路先
石橋 弥生(機械)	県立 鶴 見	グリーンホーンテニスクラブ	オリンパス光学工業株式会社
才木 昇(機械)	都立 狹 江	準硬式野球部主将	シチズン時計株式会社
須田 稔(機械)	県立 朝 霞	体育会会長、空手道部副将	武蔵工業大学大学院
百々 泰(機械)	県立 鶴 嶺	写真部部長	武蔵工業大学大学院
室井 利哉(機械)	私立 武蔵工業大学付属	モーターサイクル部部長	菱電商事株式会社
尾内 弘樹(電気電子)	私立 武蔵工業大学付属	吹奏楽団団長	武蔵工業大学大学院
田辺 肇(電気電子)	私立 城 北	マンドリンクラブ部長	武蔵工業大学大学院
本間 法義(電気電子)	県立 酒 田 東	M.I.T.祭実行委員長	武蔵工業大学大学院
宮本 秀志(電気電子)	県立 屋 代	ハンドボール部主将	武蔵工業大学大学院
久瀬 宙(電子通信)	県立 大 宮	放送会会長	パイオニア株式会社
伴城 暢一(電子通信)	私立 手塚山学院	通工会会長	武蔵工業大学大学院
安岡 賢太郎(電子通信)	私立 武蔵工業大学付属	文化団体連合会本部長	富士重工業株式会社
荒井 良成(建築)	県立 金沢桜丘	硬式野球部主将	新菱冷熱工業株式会社
近藤 隆二(建築)	私立 武蔵工業大学付属	アメリカンフットボール部主将	清水建設株式会社
菅原 武彦(建築)	県立 横浜翠嵐	フォルトローネテニス同好会	有楽土地株式会社
新井 一仁(土木)	県立 大 清 水	鉄道研究部部長	武蔵工業大学大学院
寺田 茂樹(土木)	私立 茗 溪	ラグビー部主将	栗田工業株式会社
別井 肇(土木)	公立 下館第一	ソフトボール部主将	株式会社大林組
井内 直弘(経営)	県立 鶴 見	経工会、EDPS研究会	日本アイ・ビー・エム株式会社
熊田 豪幸(経営)	都立 日 野 台	バレーボール部副将	川田工業株式会社
鈴木 志野(経営)	県立 座 間	洋弓部女子リーダー	富士ゼロックス株式会社
龍口 充宏(大学院機械)	県立 飯 田	クリーンキャンパスリーダー	株式会社日立製作所

平成4年度 決算書

平成4年4月1日～平成5年3月31日

科 目	平成4年度予算	平成4年度決算	差 異	備 考
(収 入 の 部)	(円)	(円)	(円)	
1. 会 費	45,500,000	46,630,000	△1,130,000	● 新入生、在学生
2. 雑 収 入	3,000,000	2,171,784	828,216	
3. 前年度繰越金	38,465,633	38,465,633	0	
収入の合計	86,965,633	87,267,417	△301,784	
(支 出 の 部)				
事業費	36,800,000	32,804,360	3,995,640	
4. 正課外教育援助費	25,000,000	23,873,555	1,126,445	● 全国25ヶ所で大学と共催
5. 父母連絡会費	4,000,000	2,859,788	1,140,212	● スプリングフェスティバルへの援助、F3000応援ツアー他
6. 大学行事協力費	1,800,000	1,072,221	727,779	● 体育会、学団連への機器什器購入援助
7. 大学厚生援助費	3,000,000	1,466,926	1,533,074	● Mi-Com No.6、No.7
8. 会報発行費	3,000,000	3,531,870	△531,870	
運営費	8,000,000	5,206,440	2,793,560	
9. 事務費	2,000,000	910,996	1,089,004	● アルバイト代、事務委託費、消耗品費
10. 会議費	1,000,000	937,972	62,028	● 役員会、評議員会
11. 印刷・通信費	2,500,000	1,863,972	636,028	● 通知、案内の郵送、印刷代
12. 旅費・交通費	1,000,000	1,009,520	△9,520	● 地方評議員の旅費
13. 備品費	1,000,000	54,281	945,719	● 後援会用冷蔵庫
14. 雑費	500,000	429,699	70,301	● アルバイト求人広告、ギフトカード 他
予備費	1,500,000	0	1,500,000	
特別会計	8,300,000	8,300,000	0	
15. 後援会基本積立	4,300,000	4,300,000	0	
16. 記念事業費積立	2,000,000	2,000,000	0	
17. 学生事故対策援助費積立	1,000,000	1,000,000	0	
18. 特別課外活動援助費積立	1,000,000	1,000,000	0	
小 計	54,600,000	46,310,800	8,289,200	
次年度繰越金	32,365,633	40,956,617	△8,590,984	
支出の合計	86,965,633	87,267,417	△301,784	

● 正課外教育援助費内訳

科 目	平成4年度予算	平成4年度決算	差 異	備 考
正課外教育援助費	25,000,000 ^円	23,873,555 ^円	1,126,445 ^円	● 「課外活動に対する補助制度」(資料別添)の費用ほか
課外活動援助費	22,300,000	21,708,058	591,942	
(イ)学団連援助金	(11,000,000)	(11,000,000)	(0)	● 学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(ロ)一般援助金	(9,500,000)	(10,283,778)	(△783,778)	● 課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動、学団連什器・備品購入
(ハ)学生行事援助金	(1,800,000)	(424,280)	(1,375,720)	● 体育祭、MIT祭、水泳大会、ソフトボール大会、公開企画、特別行事、Mi-Techテニストーナメント等
学生顕彰費	500,000	472,636	27,634	● 課外活動賞、後援会長賞等
学生生活指導援助費	2,200,000	1,692,861	507,139	● リーダー教育、学生団体の顧問・技術指導者の合宿指導、留学生の交流指導、研修・見学指導

平成5年度 事業計画

(1) 事業

1. 正課外教育援助

学生の課外活動のより活性化をはかるため、学生団体および学生行事等に対して援助を行う。

(1) 課外活動援助

「課外活動に対する補助制度」による援助を行う。

○学生団体連合会への援助

(学団連執行委員会、体育会、文団連、MIT祭実行委員会、放送会、吹奏楽団、新聞会)

○一般援助

(課外研究、対外活動、環境向上活動、情報活動、用具整備、特別企画、地域活動、活動奨励等)

○学生行事への援助(全学的行事)

MIT祭、体育祭、水泳大会、ソフトボール大会、Mi-Techテニストーナメント、公開企画、特別行事等に対する援助。

上記の援助は援助希望団体(個人)の申請にもとづき、大学学生部の意見を受けて決定される。

(2) 学生顕彰

- 課外活動賞の内、課外活動奨励賞の副賞を贈呈。
- 「後援会長賞」は課外活動に貢献のあった学生約20名を学位授与式において表彰し、副賞を贈呈。

(3) 学生生活指導

- リーダー教育、顧問・技術指導者の合宿指導、海外からの留学生の交流、学生団体の指導、研修・見学および指導等に対する援助。

2. 「大学と父母との連絡会」の開催

- 大学と共催し、全国各地において「大学と父母との連絡会」を開催する。今年度は東京を含め全国26ヶ所で開催する。東京会場は平成5年9月26日(日)予定。

3. 「役員、評議員と大学教職員との懇談会」の開催

- 平成5年5月29日(土)の評議員会の後、大学から学長、理事、主任教授、学生部委員、事務局管理職が出席。

4. 大学行事への協力

- 大学の主催する行事(スプリングフェスティバルほか)への協力。

- 大学で開催する学生、教職員対象の「文化講演会」等の行事への援助。

5. 学生厚生援助

- 学生生活の厚生に係わる援助。(9号館、18号館等の備品等)
- 学内クリーンキャンパス運動への援助。

6. 会報の発行

- 後援会の会報誌「Mi-Com」を年2回発行し、学内の動きを父母に連絡すると共に会員相互の親睦をはかる。

7. 新入生歓迎行事

- 平成6年度から開催予定の全学フレッシュマンキャンプの準備のための援助。

(2) 運営

1. 会議

理事会 2回 平成5年5月15日(土)、11月6日(土)予定

評議員会 1回 平成5年5月29日(土)予定

2. 後援会業務を担当する事務担当者(アルバイト)の採用



平成5年度 予 算

平成5年5月29日

科 目	平成5年度予算	備 考
(収入の部)	(円)	
1. 会 費	47,500,000	(注) 新入生の加入者
2. 雑 収 入	3,500,000	
3. 前 年 度 繰 越 金	40,956,617	
収入の合計	91,956,617	
(支出の部)		
事業費	40,000,000	
4. 正課外教育援助費	27,200,000	● 全国各地で年1回大学と共催 ● スプリングフェスティバル、文化講演会、CDの製作ほか ● 厚生設備等への援助(9、18号館等) ● 後援会広報誌の作成(2回) ● 全学的に行うフレッシュマンキャンプに係る援助
5. 父母連絡会費	3,000,000	
6. 大学行事協力費	1,800,000	
7. 学生厚生援助費	3,000,000	
8. 会報発行費	3,500,000	
9. 新入生歓迎行事費	1,500,000	
運営費	7,300,000	
10. 事務費	2,000,000	
11. 会議費	1,000,000	
12. 印刷・通信費	2,000,000	
13. 旅費・交通費	1,300,000	● アルバイト代、事務委託費、消耗品費 ● 役員会、評議員会 ● 通知、案内の郵送、印刷代 ● 地方評議員、役員の旅費 ● 後援会関係の備品、電算機
14. 備品費	500,000	
15. 雑費	500,000	
予備費	1,500,000	
特別会計	8,300,000	
16. 後援会基本積立	4,300,000	● 将来の事業拡大のため ● 大学創立記念事業協力 ● 学生事故対策として5百万円まで積立 ● 大規模な対外遠征援助1千万円まで積立
17. 記念事業費積立	2,000,000	
18. 学生事故対策援助費積立	1,000,000	
19. 特別課外活動援助費積立	1,000,000	
小 計	57,100,000	
次年度繰越金	34,856,617	
支出の合計	91,956,617	

● 正課外教育援助費内訳

科 目	平成5年度予算	援 助 対 象
正課外教育援助費	27,200,000 (円)	● 「課外活動に対する補助制度」 ● 学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会 ● 課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動 ● 体育祭、MIT祭、水泳大会、ソフトボール大会、公開企画、特別行事、Mi-Techテニストーナメント等 ● ボランティア、課外活動奨励賞、課外研究、後援会長賞等 ● リーダー教育、学生団体の顧問・技術指導者の合宿指導、留学生の交流指導、研修・見学指導
課外活動援助費	24,300,000	
(イ) 学団連援助金	(12,000,000)	
(ロ) 一般援助金	(10,500,000)	
(ハ) 学生行事援助金	(1,800,000)	
学生顕彰費	700,000	
学生生活指導援助費	2,200,000	

平成5年度 役員・評議員

役員 (敬称略)

会 長	金 原 淑 郎	機 械 (再)	理 事	東 野 成 元	機 械 (再)
副 会 長	宮 崎 昭 二	土 木 (再)	理 事	直 江 正 彦	電 気 電 子 (新)
副 会 長	伊 藤 泰 郎	経 営 (新)	理 事	飯 田 進 也	電 子 通 信 (新)
理 事	斎 藤 久 雄	土 木 (再)	理 事	豊 田 康 郎	建 築 (新)
理 事	小 川 武 靖	電 気 (再)	会 計 監 査	大 喜 多 晃	経 営 (再)
理 事	相 場 敏 彦	電 気 (再)	会 計 監 査	今 井 治	土 木 (新)
理 事	坂 東 嘉 博	機 械 (再)			
理 事	太 田 眞 郷	電 気 電 子 (再)	願 問	古 浜 庄 一	学 長
理 事	今 村 恒 雄	電 子 通 信 (再)	願 問	佐 藤 三 禄	教 授

評 議 員 (敬称略)

中 條 恒 男	東 京 都	生 産 機 械 (再)	米 山 敏 夫	岡 山 県	機 械 (再)	羽 瀧 一 郎	東 京 都	経 営 (再)
渡 辺 和 男	東 京 都	電 気 (再)	穂 刈 弘 造	神 奈 川 県	機 械 (再)	仲 山 省 三	岡 山 県	経 営 (再)
藤 井 勝 治	神 奈 川 県	土 木 (再)	大 竹 進 一	北 海 道	電 気 電 子 (再)	中 田 敏 雄	石 川 県	経 営 (再)
阿 部 和 夫	東 京 都	生 産 機 械 (再)	川 村 隆	神 奈 川 県	電 気 電 子 (再)	代 永 衛	東 京 都	経 営 (再)
松 沢 賢 治	東 京 都	生 産 機 械 (再)	出 海 滋	東 京 都	電 気 電 子 (再)	秋 本 恭 伸	東 京 都	機 械 (新)
安 藤 健 爾	愛 知 県	機 械 (再)	紫 村 誠 一	神 奈 川 県	電 子 通 信 (再)	木 村 郷 美	神 奈 川 県	機 械 (新)
中 村 誠 司	東 京 都	電 気 (再)	塙 昭 彦	神 奈 川 県	電 子 通 信 (再)	菱 沼 紀 昭	神 奈 川 県	機 械 (新)
村 口 弘 明	神 奈 川 県	電 気 (再)	千 野 恒 夫	山 梨 県	建 築 (再)	伊 藤 英 雄	宮 城 県	機 械 (新)
赤 松 和 人	岡 山 県	建 築 (再)	西 山 廣 一	東 京 都	建 築 (再)	黒 崎 浩	神 奈 川 県	機 械 (新)
奥 村 隆 俊	静 岡 県	機 械 (再)	飯 尾 宏 允	大 分 県	土 木 (再)	三 好 陽 二	東 京 都	機 械 (新)
川 田 勝 保	栃 木 県	機 械 (再)	佐 藤 安 宏	福 島 県	土 木 (再)	岩 元 莞 二	神 奈 川 県	電 気 電 子 (新)
大 司 秀	東 京 都	機 械 (再)	久 保 田 滋	東 京 都	経 営 (再)	後 藤 正 昭	兵 庫 県	電 気 電 子 (新)
木 滑 孝 一	新 潟 県	電 気 電 子 (再)	小 笹 滋 彦	石 川 県	経 営 (再)	安 波 政 弘	茨 城 県	電 気 電 子 (新)
藤 木 敏 朗	福 岡 県	電 気 電 子 (再)	家 里 直 明	新 潟 県	機 械 (再)	佐 藤 信 弥	千 葉 県	電 子 通 信 (新)
真 子 裕 史	神 奈 川 県	電 気 電 子 (再)	三 浦 義 昭	埼 玉 県	機 械 (再)	竹 内 哲 夫	高 知 県	電 子 通 信 (新)
大 川 誠 一	神 奈 川 県	電 子 通 信 (再)	笠 原 威	神 奈 川 県	電 気 電 子 (再)	福 井 健	東 京 都	電 子 通 信 (新)
伊 藤 栄 一	神 奈 川 県	建 築 (再)	加 地 誠 輔	愛 知 県	電 気 電 子 (再)	濱 田 恵 亮	宮 崎 県	建 築 (新)
須 藤 忠	東 京 都	土 木 (再)	島 津 靖 雄	愛 知 県	電 子 通 信 (再)	今 井 正 一	広 島 県	土 木 (新)
樋 口 尚 志	福 島 県	経 営 (再)	堂 本 雄 司	神 奈 川 県	電 子 通 信 (再)	小 林 伸 年	神 奈 川 県	土 木 (新)
板 野 醇 一	神 奈 川 県	経 営 (再)	近 藤 啓 介	静 岡 県	建 築 (再)	奥 田 清 夫	沖 縄 県	経 営 (新)
市 村 稔	埼 玉 県	機 械 (再)	田 口 尚 二	秋 田 県	建 築 (再)	横 山 良 一	神 奈 川 県	経 営 (新)
中 山 泰 夫	東 京 都	機 械 (再)	八 木 高 志	神 奈 川 県	土 木 (再)	須 藤 彰	山 形 県	経 営 (新)
徳 永 勝 利	東 京 都	機 械 (再)	永 田 博 司	神 奈 川 県	経 営 (再)	木 下 健 介	東 京 都	経 営 (新)

平成4年度「課外活動に対する補助制度」による援助

後援会の事業の一つに「課外活動に対する補助制度」があります。これは学生が自主的な財源確保の努力をしつつも補助を受けることにより、特色ある活動や、より高レベルの活動が可能となり、キャンパスライフの充実に貢献することを期待して設けられているものです。

■第1回分(平成4年6月)

No.	団 体 名	学生代表者名	顧問名	活 動 の 内 容	補助金額(円)
1	学 生 団 体 連 合 会	加藤一司	星野重夫	平成4年度学生団体連合会への援助金として	11,000,000
				パーソナルコンピュータのフロッピーディスクユニットとスイッチボックスの購入	90,000
				学生団体連合会傘下団体の郵便受けの購入	84,460
				ミットワーク用のカメラの購入	50,000
2	文 化 団 体 連 合 会	織田陽平	土井雅博	本部部室内の机・椅子の購入	115,600
				ミュージックフェスティバル開催に伴う援助金として	350,000
				新入生歓迎講演会の開催	43,000
				パソコンの購入	270,000
				文連委員用の腕章の購入	54,000
3	写 真 部	秋野啓輔	野崎喜嗣	学内における写真展示に対して	52,700
4	ラ ジ オ ク ラ ブ	三好秀明	井出正男	コンテストと研究用のアンテナおよびBSアンテナの設置	130,000
5	囲 碁 部	栗田和広	加藤 満	5部準優勝に対して	30,000
6	鉄 道 研 究 部	高場基司	佐藤三祿	「のぞみ号」ビデオ作成および上映会	36,600
7	ハワイアンクラブ	富岡 要	吉岡靖夫	創部30周年記念第19回定期演奏会	50,000
8	演 劇 部	河崎貴謙	中添 淳	平成4年度春期公演費用として	100,000
9	航 空 研 究 部	下山祐司	稲村二彦	鳥人間コンテスト用飛行機の製作費として	700,000
10	ハンドボール部	宮本秀志	浅野鉦世	春季関東学生リーグ戦における2部昇格に対して	300,000
11	バスケットボール部	網島秀人	小玉克己	春季理工系リーグ戦における1部昇格に対して	100,000
12	アメリカンフットボール部	近藤隆二	古賀浩二郎	第6回東西工業大学定期戦の開催について	160,000
13	体育会武道系	廣尾康正	木村富夫	体育会武道系団体のナイトラリー開催に対して	64,000
14	山 岳 部	村田光一	橋本正明	事故遭難対策に対する援助(保険料)	55,280
15	水 泳 部	山口裕文	土井雅博	付属中高水泳部との交流試合	30,000
16	ワンデリングスキー同好会	滝口 徹	佐藤シヅ子	オール関東学生スキー大会での入賞に対して	50,000
17	経 工 会	山本耕司	村原貞夫	経工会の年間活動に対して	50,000
18	通工会マイコン研究会	小宮山俊一	金子郁夫	通工会の年間活動に対して	50,000
19	音 響 研 究 会	佐々木俊久	今井章久		
20	ロボット研究開発同好会	高田佳彦	田中康寛	全日本ロボット相撲大会参加出場に対して	150,000
	チ ャ ム サ ン ダ ー	中野 聖	杉山好弘	本田エコパワー燃費競技全国大会への出場に対して	100,000
	合 計				14,265,640

■第2回分(平成4年8月)

No.	団 体 名	学生代表者名	顧問名	活 動 の 内 容	補助金額(円)
1	文 化 団 体 連 合 会	織田陽平	土井雅博	プリンターの購入	182,000
2	ソ フ ト ボ ー ル 部	岸本昌和	木村富夫	春・秋季のリーグ戦、インカレ、東日本大学選手権、関東大学選手権出場に対して。他合宿費、およびユニホーム代	100,000
3	空 手 道 部	市川 毅	佐藤 寛	第5回全日本理工系大学空手道選手権大会(大会主催校として)	200,000
4	バ ド ミ ン ト ン 部	内山 達	千葉和茂	秋季リーグ戦の主催校として	90,000
5	山 岳 部	村田光一	橋本正明	平成4年度大学山岳リーダー 夏山研修会	50,000
6	グ リ ー ク ラ ブ	秋山雅和	井出正男	第2回ジョイントコンサート「フィリア」に対して	50,000
7	美 術 部	柴田敏弥	田村 宏	無料公開展覧会の開催に対して	50,000
8	鉄 道 研 究 部	高場基司	佐藤三祿	鉄道模型展示運転会の開催	45,000
9	英 会 話 研 究 部	矢島征洋	高山誠太郎	第12回学長杯争奪ディベート大会	100,000
10	写 真 部	秋野啓輔	野崎喜嗣	学外の写真展に対して	20,000
11	マンドリンクラブ	笠井 亮	高岡 京	第30回定期演奏会に対して	50,000
				全国マンドリン連盟主催の合同演奏会の参加に対する補助	80,000
12	航 空 研 究 部	下山祐司	稲村二彦	第16回鳥人間コンテスト出場に対して	400,000
13	ソーラーカー同好会	福北博史	吉野利男	ソーラーカーレースの大会参加に対して	200,000
14	Mi-Techテニストーナメント実行委員会	栄山 勝	古賀浩二郎	第3回学長杯Mi-Techテニストーナメントに対して	500,000
	合 計				2,117,000

■第3回分(平成4年12月)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金(円)
1	学生団体連合会	加藤一司	星野重夫	トランシーバーの購入	270,000
2	M.I.T.祭実行委員会	竹野下太輔	安藤信好	MIT祭における ①研究室開放 180,000円 ②F3000展示会 770,000 ③花火の打ち上げ 250,000	1,200,000
3	吹奏楽団	吉井健一	吉田祐夫	吹奏楽用の校歌の楽譜	100,000
4	囲碁部	栗田和広	加藤 満	秋季関東囲碁リーグ戦において4部昇格	20,000
5	鉄道研究部	高場基司	佐藤三祿	MIT祭用部誌発行に対して	60,000
6	パチューラーセブン	門田 修	押川恵一	MIT祭における演奏会に対して(レンタル料)	20,000
7	マンドリンクラブ	上門裕誠	高岡 京	ジョイントコンサート開催に対して	100,000
8	写真部	森 隆之	野崎喜嗣	MIT祭での写真展示会に対して	60,000
9	アメリカンフットボール部	近藤隆二	古賀浩二郎	秋季リーグ戦において3部で優勝し、2部昇格に対して	300,000
10	洋弓部	前野茂樹	安味貞正	全日本アーチェリー選手権大会出場に伴う遠征費として 全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会出場に伴う遠征費として	100,000
11	スキー部	木村洋士	浅野鉦世	全日本学生スキー選手権参加に伴う費用として	50,000
12	柔道部	杉本昌由	神山光男	四大学対抗柔道大会幹事校および優勝に対して 稽古用の共通施設として姿見の購入に対して	100,000 80,000
13	合気道部	渡辺正幸	藤川英司	学生演武大会への補助として	30,000
14	天文研究会	塩川康成	黒沢 敦	MIT祭での展示部門参加に対して(学生部長賞)	50,000
15	潜水科学研究会	中原陽次	土井雅博	体験ダイビング講習会開催に対して	30,000
16	武蔵工大みこし連	才木 昇	土井雅博	秋の玉川神社祭礼への参加	50,000
	合 計				2,620,000

■第4回分(平成5年2月)

No.	団体名	学生代表者名	顧問名	活動の内容	補助金額(円)
1	演劇部	河崎貴謙	中添 淳	秋期公演に対して	50,000
2	グリークラブ	名波裕幸	井出正男	第33回定期演奏会に対して	30,000
3	パチューラーセブン	綿貫敬介	押川恵一	定期演奏会への援助	30,000
4	硬式野球部	佐藤崇仁	吉田英二	防球ネットの購入(準硬式野球部と併用)	82,000
5	準硬式野球部	佐藤一成	安田忠郎	第10回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会へマネージャーとして出場のため	40,000
6	山岳部	菊池輝彦	橋本正明	大学山岳リーダー研修会参加	60,000
7	ワンダーフォーゲル部	佐藤守道	安味貞正	関東学生ワンゲルリーダー講習会の参加費に対して	45,000
8	電気研究会	原 孝宏	光井英雄	会の研究活動に対して	50,000
9	クリーンキャンパス促進の会	前原謙一	小玉克巳	平成4年度年間活動に対して	100,000
	合 計				487,000

「後援会長賞」をいただいて

新しく制定された後援会長賞に22名が表彰され、受賞者の中から、鈴木さんと百々さんに受賞の感想をいただきました。

鈴木 志野(経営工学科卒、富士セロックス株式会社勤務)

体育会洋弓部に入部したのは、大学1年の5月中頃でした。体育会というところで始めは、学業と両立できるかどうか不安でした。しかし、いざ部活動を始めると、計画的に勉強やアルバイトをすることができ、学生生活においてメリハリをつけることができました。

また、部活動の1番の収穫は多くの友達ができただけでなく、部活動をしていなかったらつまらない学生生活になったと思います。もちろん、部活動ですべてを費やしていた訳ではありません。でも、アルバイトにしても検定試験を受ける時も、そして正課の勉強も部活動があるからいつまでにごだけやっておこうなどと、計画性を持って進めることができました。

大学時代の楽しい思い出は、合宿や、辛い練習の後の自由な語りなど部活動を通したものであり、今でも時々話題にのぼることがあります。振り返ってみると、洋弓という打ち込めるものがあって、本当に良かったと思っています。大変だったことや、辛かったこと、そして、辞めてしまいたいと思ったこともあったが、今回、後援会長賞を頂くことができ、部活動に対してだけではなく、大学生活の4年間の努力を評価して頂いたようで、とても嬉しく名誉に思っています。

百々 泰(機械工学科卒、武蔵工業大学大学院生)

私にとって後援会長賞を受賞したことは、写真部員としての4年間の締めくくると大きな出来事として、これからの進む道にはばみになります。

4年前、期待と不安のうちに始まった大学生活を有意義なものにしようと写真部の戸をたたいたのです。私にとっての写真部は、中学の時から続けていた部活動です。そして写真は、いつも新しい自分を発見できる趣味であり、多くの先輩や後輩と知り合わせてくれた大切なものです。

1枚の印画紙を通して、その人なりの感じ方を表現していく写真の面白さは、日常の生活では体験することのできない、ものの見方や、考え方を教えてくれました。

部活動では、展示会を通して他大学と交流したり、部の例会で友達と作品について話し合うことによって、技術的な話題だけではなく、それぞれの感性の違いと言ったものを学ぶよい機会にもなりました。

このように、教科書を読んでいるだけでは分らない、ものの見方が学べる、それが課外活動だと思います。そして、私たちの課外活動に対して深い理解を示してくれる大学で、有意義な時を過ごせたことを幸せに思います。

クラブ活動紹介⑦

今回は、熱心な練習で精神と技を鍛え、48名の部員中39名が有段者という優秀な成績を誇る弓道部と、学生ならではの自由で柔軟な発想・視点で、毎年独創的なアイデア作品を発表している特許アイデア研究部をご紹介します。

日頃の厳しい練習で平常心を培う弓道部

日本古来の武道である弓道は近年、スポーツとして親しまれ、その愛好者も老若男女を問わず、年々増えているといえます。武蔵工大弓道部も今年は部員数が48名(内女子10名)になり、活気に満ちた活動を行なっています。6月16日、武蔵工大体育館内にある弓道場を訪ね、部員の方々に弓道の魅力、練習内容、クラブと勉強の両立などについて伺いました。

●暑さも忘れるほどの静的緊張感

「こんにちわ!」「こんにちわ!」弓道場の入口前の階段を昇りきらないうちに元気な声に迎えられました。姿勢正しく、整然と並んだ部員たちの大きな声に圧倒され、こちらの背筋も心持ち伸びる思いがします。

道場に入ると、4人が的に向かって立ち、1人ずつゆっくり流れるような動作で弓を引いています。後方では正座した部員たちが静かに見つめています。矢が一射放されるたびに、あたたか時は「セー!」、はずれた時は「ドンマイ!」という声がいっせいにかけられますが、それ以外の声や音はまったく聞こえません。外は30度を越す暑さだというのに、ここではそれも忘れるほど空気がびんと張り詰めています。

「普段から試合と同じ緊張した雰囲気の中で練習して、平常心を養っているんですよ。学生の場合どうしても試合の雰囲気にのまれてしまい、実力が発揮できないんですね」

と、おっしゃるのは監督の米山義一先生。昭和38年の弓道部創部以来30年間、部員たちの指導にあたっていらっしゃいます。

「30年の間には、試合に出る選手8名を集めるのがやっとというほど部員が少ない時もありました。練習ではつらいことや厳しいこともありますが、学生弓道の良さは純粹でさわやかなところですね」

●無心になつて的に向かう時が最高

弓道部の全体練習は毎週水曜日と土曜日、それ以外の日は自由練習になっていて、午前8時から午後8時までいつでも練習できます。授業の合間を見ながら一日中練習する熱心な部員もいるそうです。

高校時代から弓道をやっていたという部員が多い中、主将の佐藤秀憲君(機械工学科3年)は大学



▲練習に没頭する主将の佐藤秀憲君

に入ってから弓道を始めたという部員の1人です。「初めは本当に下手だったんです」という佐藤君も今では、

「練習量も多いし、技もたいしたものですよ。部員のこともよくまとめています」

と、米山先生も太鼓判を押します。大学から弓道を始めた部員たちも、1年の秋には高校からの経験者とはほぼ同じくらいのレベルになり、全日本弓道連盟が行う段級審査ではほとんどの新入部員が有段者になるそうです。これも米山先生の厳しい指導と部員たちの熱心な練習があればこそでしょう。

練習熱心で弓道が大好きという部員を代表して小野雅司君(機械工学科3年)は、

「弓道は的にあたるかはずれるかの一見単純なスポーツだけど、やってみると奥が深いんですよね。精神的にも自分を鍛えられるし、何よりも無心になつて的に向かっているときが最高ですね」と、語ってくれました。



▲弓道大好き人間、小野雅司君



▲真剣なまなざしで部員の指導にあたる
米山監督

弓道部
顧問：伊藤泰郎教授
阿野令子講師(女子部)
主将：佐藤秀憲(機械工学科3年)
部員数：48名(内女子10名)



▲整然と進む練習、空気がびんと張り詰める緊張感

●弓道で鍛えた集中力で勉強も両立

さて、これほどクラブ活動に打ち込んでいると気になるのが部員たちの勉強のこと。どのようにしてクラブと両立しているのでしょうか。



▲いつもニコニコ 安斉恭子さん

安斉恭子さん(電子通信工学科3年)は、「教職課程も取っているので授業やレポートの作成で練習時間が減るときもあるけれど、あいた時間に集中して練習し、勉強と両立させています」

高柿弘義君(土木工学科2年)も、「忙しいと、かえって勉強もクラブも集中してできる」ので両立することは可能だと言います。

壬生透君(機械工学科2年)は、まだ入学して間もないころ、体育館1階のトレーニングルームで、弓道部の新入部員とまちがえられて、



▲部活も勉強も集中主義の高柿弘義君



▲自分の進路は周りが決めると壬生透君

「ほら、ぼやぼやしてないで、君もやらなきゃだめじゃないか」と、先輩に注意され、しかたがないのでそのまま入部してしまったという変わった経歴の持ち主ですが、「勉強の面では、先輩が貸してくれる資料が大いに役立っています」とのこと。先輩も責任を感じているかもしれませんね。

米山先生は、そんな部員たちの話を笑顔で聞きながら、次のように話してくださいました。

「勉強する時は勉強、クラブ活動する時はクラブ活動というように物事を集中して行う、勉強が忙しい中で余暇を見つけて弓道を楽しむ、というような訓練が知らず知らずのうちに身につく、社会に出て役立っているようですよ」

また、練習日にはいつもOBが2～3人、コートに来るそうですが、その時に自分たちの経験を踏まえて、学生生活のこと、実社会へ出てからのことなど、さまざまなアドバイスを部員たちにしてくれるとのことでした。

●秋のリーグ戦には上位を目指す

武蔵工大弓道部の男子は、4～5年前までは東京都にある理工系大学のトップにあり、東京都学生弓道リーグ戦では1部～8部まである50数校の大学の中で長い間3部の上位でした。しかし、ここ2～3年振るわず、現在は4部Aとなっています。女子は昨年より参加し、現在4部Bです。リーグ戦は射距離28m、的の大きさは直径36cmで、男子は8人各20射計160射、女子は4人各12射計48射の的中数で競います。

「学生弓道は、社会人に比べてメンタルな部分の影響が大きいんです。波に乗るとグーッと調子がよくなるかわりに、一度不調になると、これまたグッと落ち込みやすい。とくに武蔵工大はそうなんです。不調の時に端緒を開くのは、まあ私の役目でもあるんですが……、主将の佐藤君に負うところも大きいですね」

と、おっしゃった後、米山先生は、実は去年くらいから調子は上昇中だと付け加えました。

主将の佐藤君は、「試合中は他の人が当たろうが、はずれようがとくに影響されることはありませんね。図太い性格なんです」

他の部員たちも、「試合の時の方が気持ちが集中してあてられます」(山下公子さん・経営工学科3年)「試合の緊張感が快感！」(小野雅司くん・機械工学科3年)と頼もしい発言も飛び出しました。秋のリーグ戦が期待できそうです。



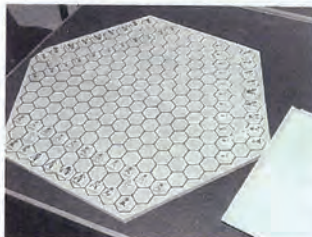
▲度胸一番、山下公子さん

豊かな発想で、名品、珍品大発明 特許アイデア研究部

「必要は発明の母」のことわざ通り、日常生活の中で、ちょっと不便だなとか、何とかしたいなあと思っていることから発明のアイデアは生まれてきます。武蔵工大特許アイデア研究部は実用品、非実用品を問わず、学生ならではの柔らかな頭でユニークな作品を多く発表してきました。作品と共にクラブの活動状況をご紹介します。

●実用新案第1号は「巴将棋」

武蔵工大特許アイデア研究部の創部は昭和47年。昨年12月18日、創部20年目にして初めて特許庁に実用新案を出願しました。作品は「巴将棋」。将棋盤を六角形にして3人で遊べるように工夫したものです。アイデアを考えた吉川潤君（電気電子工学科3年、現在文化団体連合会本部副本部長）は、「遊び方はだいたい普通の将棋と同じです。実用新案の出願のノウハウは先輩に教えてもらいました。まだ、どこにも売り込みに行っていないので商品になるかどうかはわかりません」



▲「巴将棋」市販されれば大流行



▲特許庁への出願は、まかせてと吉川潤君

写真のように、どうしてこれが今まで考えられなかったのだらうと思われるほど発想は単純なのですが、アイデアというのは見えないものを見る目を持たないと、なかなか浮かんでこないものなのでしょう。

●メインイベントは日本学生アイデア連盟展

武蔵工大特許アイデア研究部の部員は、現在17名。全員男子です。クラブの活動は、4～9月は月1回全員が集まってアイデアを発表する以外は、それぞれ個人でアイデアを練る期間にあてられます。10月からは週2回集まって、M.I.T.祭や日本

学生アイデア連盟展に出す作品の製作にとりかかります。

日本学生アイデア連盟展は、大妻女子大学、東京理科大学、明治大学、明星大学、そして武蔵工大の5大学7サークルが加盟している日本学生アイデア連盟主催の展示会で、(社)発明学会、(社)全国発明婦人協会、(社)特許管理士会などが後援しています。「より多くの人に発明にふれる機会を提供する」「学生にしかできない発想を広く一般の人にみてもらう」という目的で毎年1回開催され、今年で18回目を迎えます。展示される作品は約70点、どれも各大学の知恵と創意を結集したものばかりです。

作品の製作中はOBにも手伝ってもらったり、夜遅くなる日が続くこともありますが、

「みんなで力を合わせて作品を作っている時がいちばん楽しいですね」と、副部長の高橋忽治君（電気電子工学科3年）。



▲考える苦しみは、作る楽しみがあるからと高橋忽治君

部長の市川悟君（土木工学科3年）は、

「もっと予算があったらいいと思います。そのためにもいい作品を出して実績を作らなければならないですね」



▲大いに語る市川悟部長

それでは武蔵工大の作品の中で好評だったものを紹介しましょう。

●入ってますよ/「オートノッカー」

「オートノッカー」は平成3年の第16回日本学生アイデア連盟展に出品。考案者は栗田昌昭君（当時電子通信工学科3年）です。これ



▲「オートノッカー」をミニチュアトイレで説明する市川悟君



▲部室の談笑がアイデアの宝庫

はトイレに入っていてノックされるとドアが自動的にノックを返してくれる装置で、音に対するセンサーを利用しています。確かに用を足している時には便利ですが、隣のドアの音にも反応したりすることもありそうですし、若干改良が必要だということでした。

●招かれざる客用玄関マット「ちょっと失礼」

これは玄関マットにタイマー回路付きの電話を接続したもの。玄関マットに一定時間以上（この場合3分間）の荷重がかかると自動的に電話のベルが鳴る仕組みになっています。しつこいセールスマンや、おしゃべり好きの近所の奥さんが来て、玄関先で話し込まれた時に便利。電話のベルが鳴ったら「電話がかかってきたのでちょっと失礼!」



▲発明王賞の「ちょっと失礼」



▲彼女のいない歴2年の松村昌広君

と言って追い返すことができるわけです。平成4年の第17回日本学生アイデア連盟展で発明王賞を受賞し、会場のアンケートでも一番好評だったとか。考案者は松村昌広君（土木工学科3年）。1人暮らしをしている松村君の実感が込められているようです。

●几帳面なグルメに「二重回転テーブル」

中華料理店にある回転テーブルは大きな回転台がクルクル回るだけですが、この「二重回転テーブル」は皿自体もクルクル回るように、皿が載る部分にも回転台を取り付けてあります。大きな回転台を回すと料理皿の回転台は逆方向に回転するように連動してあるので、各人の前にはどの料理皿も常に同じ部分が手前にくるようになります。



▲私がこの部室の主人です

特許アイデア研究部
顧問：浅見克敏教授
部長：市川 悟（土木工学3年）
部員数：17名

つまり、他の人が箸をつけた部分が手前にくることではないというわけです。自分が食べる部分がないといわかるので、気兼ねなく食べられて便利ですが、いつも人よりたくさん食べようと思っている人には、このテーブルはちょっとさびしいかもしれませんね。

この作品も平成4年の日本学生アイデア連盟展に共同作品として出品し、発明学会賞を受賞しました。会場でも人気が集中し、話題を集めていたそうです。



▲発明学会賞の「二重回転テーブル」

●何気ない会話からアイデアが生まれる

特許アイデア研究部ではアイデア作品の製作のほかに、毎年9月に3年生が1年生を引率して、特許庁の見学に行く活動も行っています。特許を出願するシステムを覚えたり、今までどんな特許が出願されているのか閲覧したりしますが、この時は部員でなくても特殊に興味のある学生ならだれでも一緒に連れていくそうです。

クラブ活動と勉強の両立については、「作品製作中は忙しいですが、ほかのクラブに比べて活動日が少ないので、両立がむずかしいということはありません」

と、部長の市川くん。クラブ活動のない日でも部室に集まっておしゃべりをする人が多いそうですが、そんな時の何気ない会話から良いアイデアが浮かぶこともあるとか。今年はどんな作品ができるのか楽しみです。

お知らせ

第18回日本学生アイデア連盟展

会期 ●平成5年11月30日～12月6日

時間 ●10:00～19:00

（最終日は16:00まで）

会場 ●東京・錦糸町 西武ザ・プライム 6F
STUDIO 錦糸町

平成5年度「大学と父母との連絡会」のお知らせ

全国26ヶ所で開催

後援会と大学の共催により平成5年度「大学と父母との連絡会」を下記の26会場で開催します。大学側から教職員の方が出席され、教育方針や現況等について説明していただくと共に、在学する子弟の修学および学生生活上の諸問題について懇談することを目的としております。奮ってご出席ください。

●平成5年度「大学と父母との連絡会日程および会場」

開催地	開催日	開催時間	会場と所在地(電話番号)	備 考
釧路市	9月15日(水・祝)	10:00～12:30	釧路東急イン(2F 桜の間) 釧路市北大通13-1-14 (0154-22-0109)	
札幌市	9月14日(火)	10:00～12:30	札幌ガーデンパレス(4F 錦の間) 札幌市中央区北1条西6丁目 (011-261-5311)	
青森市	9月11日(出)	11:00～13:00	青森第一ホテル 青森市新町2-5-6 (0177-75-4311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
仙台市	9月12日(日)	11:00～13:30	ホテルサンルート仙台(3F 藤の間) 仙台市中央4-10-8 (022-262-2323)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
郡山市	9月11日(出)	10:30～13:30	チサンホテル郡山 郡山市駅前1-8-18 (0249-23-6711)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
宇都宮市	9月12日(日)	10:30～13:30	関東チサンホテル宇都宮 宇都宮市駅前通3-2-3 (0286-34-4311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
水戸市	9月10日(金)	10:30～13:30	三の丸ホテル(若樹の間) 水戸市三ノ丸2-1-1 (0292-21-3011)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
長野市	9月4日(出)	10:30～14:30	長野ファーストホテル 長野市新田町1107 (0262-35-8686)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
甲府市	9月5日(日)	10:30～14:30	甲府ホテル 甲府市北口1-2-17 (0552-52-1311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
金沢市	9月4日(出)	10:30～13:30	金沢東急ホテル(高砂の間) 金沢市香林坊2-1-1 (0762-31-2411)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
富山市	9月5日(日)	10:30～13:30	富山エクセルホテル東急(15F 会議室) 富山市新富町1-2-3 (0764-41-0109)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
東京都	9月26日(日)	11:30～15:00	武蔵工業大学 世田谷区玉堤1-28-1 (03-3703-3111)	昼食は、学生が利用している学生食堂のメニューを試食していただく予定です
高崎市	9月11日(出)	10:00～13:00	高崎ブラザホテル(2F 会議室) 高崎市通町4 (0273-26-1211)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
新潟市	9月12日(日)	10:00～13:00	ホテルイタリア軒(5F 弥彦の間) 新潟市西堀通7番町1574 (025-224-5111)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
静岡市	9月4日(出)	午前の部 9:30～12:00 午後の部 13:30～16:00	サンパレスホテル(2F シェインパレス) 静岡市南町11-29 (054-282-2277)	
浜松市	9月5日(日)	11:00～13:30	マルコーイン・浜松(2F 会議室) 浜松市砂山町324-15 (053-457-0505)	食事会方式となりますので当日、食事代として1000円を徴収させていただきます
名古屋市	9月4日(出)	10:00～12:00	名古屋東急ホテル(4F 栄の間) 名古屋市中区栄4-6-8 (052-251-2411)	
大阪市	9月3日(金)	10:30～13:00	東洋ホテル(2F 桜の間) 大阪市北区豊崎3-16-19 (06-372-8181)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
岡山市	8月29日(日)	10:15～13:00	岡山東急ホテル(3F 吉井の間) 岡山市大供3-2-18 (0862-33-2411)	食事会方式となりますので当日、食事代として3000円を徴収させていただきます
広島市	8月28日(出)	午前の部 10:00～12:00 午後の部 13:30～15:30	広島インテリジェントホテル 広島市南区東荒神町3-36(082-263-7000)	
小都市	8月27日(金)	10:15～13:00	山口グランドホテル 山口県吉敷郡小郡町黄金町1-1 (08397-2-7777)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
高知市	9月4日(出)	11:00～13:30	ホテルサンルート高知(芙蓉の間) 高知市北本町1-1-28 (0888-23-1311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
松山市	9月5日(日)	11:00～13:30	シャトーテル松山(2F クリスタルルーム) 松山市三番町4-9-6 (0899-46-2111)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
福岡市	8月29日(日)	午前の部 10:00～12:30 午後の部 14:00～16:30	ホテルステーションプラザ(9F 会議室) 福岡市博多区博多駅前2-1 (092-431-1211)	
宮崎市	8月28日(出)	10:30～13:30	ホテル・メリディアン(3F 飛翔の間) 宮崎市橘通東3-1-11 (0985-26-6666)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
那覇市	7月10日(出)	10:00～13:00	沖縄東急ホテル(11F 海の間) 那覇市天久1002 (098-868-2151)	食事会方式となりますので当日、食事代として1000円を徴収させていただきます